



第18回日中韓三カ国環境大臣会合 (TEMM18)の結果について

平成28年6月
環境省

第18回日中韓三カ国環境大臣会合 (TEMM18)

TEMMとは

三カ国の環境大臣が、地域及び地球規模の環境問題に関して率直な意見交換を行い三カ国の協力関係を強化することを目的として、1999年より毎年持ち回りで開催。

TEMM18

TEMM17で採択された三カ国共同行動計画に基づく協力プロジェクトの進展の確認及び本会合の成果についての共同コミュニケを採択。

さらに中国・韓国と二国間会談を実施。中国環境保護部長の来日は6年ぶり、韓国の環境部長官は3年ぶり。



日 程	平成28年4月26日(火)、27日(水)
開催場所	静岡県静岡市
主な出席者	日本 丸川珠代環境大臣
	韓国 尹成奎(ユン・ソンギョ)環境部長官
	中国 陳吉寧(チン・キツネイ)環境保護部長

TEMM18の成果

(TEMM18の位置付け)

1. 昨年採択された「三カ国共同行動計画」に基づく協力プロジェクトの進捗を確認する初めての機会
2. 「持続可能な2030アジェンダ」及び「パリ協定」の2つの国際枠組みの採択以降初めてのTEMM

(TEMM18の成果)

1. 各分野の活動の進展及び今後も協調的な取組を継続・拡大することを確認(下記参照。)
2. 両枠組みを受けた今年からの対策実施及びパリ協定の早期発効・実施の重要性に合意
3. 大地震等災害時の廃棄物対策等における経験や政策の共有を図ることに合意

「三カ国共同行動計画(2015～2019)」に基づく協力プロジェクトの進展の確認

(共同行動計画に盛り込まれた優先9分野)

大気環境改善 生物多様性 化学物質管理と環境に係る緊急時対応 資源循環利用/3R/電気電子機器の越境移動
気候変動対策 水及び海洋環境保全 環境教育、人々の意識向上及び企業の社会的責任 地方環境管理
グリーン経済への移行

(個別分野の主な進展)

1. 中国をはじめとする環境技術のニーズと日本などが持つ環境技術のマッチングを促進する「技術ネットワーク」を三カ国で新たに立ち上げ。今後、様々な環境分野の技術支援に活用可能なプラットフォームとして優れた対策技術の普及に活用。
2. 大気汚染問題について、PM2.5対策が優先課題であることを確認。PM2.5の発生源に関する研究、PM2.5対策に資する技術に関する情報交換を強化することに合意(上記「技術ネットワーク」を活用)。今後、日本の技術、知見の貢献により地域のPM2.5対策を促進。
3. 海洋ごみ問題の解決のために連携が不可欠な中国・韓国と、初となるワークショップを開催。今後、海洋ごみに関するデータの共有、調査結果等についての情報交換など協力を強化。

日中・日韓二国間会談結果概要

日中二国間会談

大気汚染、気候変動、海洋ごみ等について取り上げ、各分野における対策、二国間環境協力の推進等について議論。

以下について両国の協力を確認。

- ・PM2.5などの大気汚染問題について、我が国の有する経験や技術を活かし、日中都市間連携協力などを通じた協力関係を深化
- ・パリ協定の早期発効に向けた役割を期待、コベネフィット・アプローチ協力を強化()
- ・海洋ごみについてTEMMを通じた連携・協力を充実
- ・水俣条約について早期発効に向け早期締結等で連携

()コベネフィット・アプローチ協力の第3フェーズの実施に関し覚書に署名。大気汚染改善などの環境対策と温室効果ガスの排出削減対策を同時に達成する技術導入を支援



日韓二国間会談

気候変動、海洋ごみ、大気汚染対策等について取り上げ、各分野における政策、二国間環境協力の推進等について議論。

以下について両国の協力を確認

- ・パリ協定を早期に締結し、協定の早期発効を目指していく立場を確認し、立場に応じた貢献を期待
- ・海洋ごみについてTEMMを通じた連携・協力を充実
- ・PM2.5に関する二国間のデータ共有等の協力を継続・進展
- ・両国の関心分野の課題について、局長級の政策対話を定期的
に開催し、協力関係を強化

